



津田小だより

松江市立津田小学校
令和8年 10月 22日
校長 小林 敏朗

10月に入り、随分と涼しくなり秋を感じるようになってきました。これから11月に向けて、秋がどんどん深まっていくことと思います。秋と言えば「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」などと言われます。子どもたち一人一人にとって「〇〇の秋」をしっかりと満喫してほしいと思っています。

修学旅行から…

10月14日（水）15日（木）の2日間、6年生は広島方面に修学旅行に出かけました。初日の14日（水）については前日あたりまで天候を心配しましたが、2日間とも天候に恵まれ、予定通りの学習や活動を行いました（初日のホテルの移動時に道路事情により1時間程度の遅れはありましたが…）。平和記念公園での平和学習（平和記念資料館見学やガイドさんによる碑めぐり、ピースメッセージ集め）、宮島での歴史学習やお土産などの買い物、JFE スチール株式会社西日本製鉄所の見学、「みろくの里」での友達と思い出づくりなど、子どもたち一人一人の生き生きとした表情を見ることができました。



この2日間を通じて感心したことを2つ紹介します。一つ目は、時間を守ろうとする意識が高かったということです。しおりに各活動の時刻は書いてありますし、学習班で腕時計がありますが、子どもたちはグループ活動後の集合時刻をしっかりと確認したり、時計を見ながらその後のことを考えて行動したりしようとする姿が多く見られました。修学旅行は団体行動ですので「周りの友達に迷惑をかけないように」という思いも働いたことと思いますし、よく考えて行動できていました。2つ目は、津田っ子の度胸です。これは昨年度の修学旅行でも感じたことです。平和学習の終わりあたりに、平和記念公園でピースメッセージ集めがあります。海外からの観光客から平和についてのメッセージをもらう活動です。津田っ子はすごいです！海外からの観光客を見つけると、(突撃?)インタビューをします。私が近くで聞いていただけても、アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、オーストリア、インド、ブラジルなどからの方々がいらっしゃいました。こういう方たちに、積極的に声をかけインタビューをしていました。頼もしい津田っ子の姿が多く見られました。

修学旅行が終わり、6年生の子どもたちは学年や学級でふりかえりをし、その後各自でふりかえりをしました。小学校卒業までの登校日数がおよそ90日となりました。この修学旅行で学んだことや課題としてわかったことなどを生かし、心身ともに成長してほしいと思いますし、我々教職員でしっかりと支えていきたいと思っています。

最後になりましたが、保護者の皆様には修学旅行に向けて荷物の準備、朝夕のお見送り、お迎え等大変お世話になりました。ありがとうございました。



5年生松江市連合音楽会から…

10月1日(木)の午後、プラバホールで松江市連合音楽会が行われました。本校からは、5年生が学校の代表として参加しました。5年生の子どもたちは、この日を目指し音楽の授業を中心に練習に励んできました。発表当日はこれまでの練習の成果を発揮し、とても素敵な歌声で合唱「PRIDE」を、みんなで息をぴったり合わせて合奏「Honto」を披露しました。特に、合唱は2日前に行った壮行演奏会の時よりも数段よかったように感じました。また、発表している時の子どもたちの顔、表情がとても生き生きとしていてよかったなと思いました。発表を終えた安堵の表情も印象的でした。



5年生の連合音楽会が終わり、次は全校児童、全学年による「うたごえ広場」です。私は音楽的なことはよくわかりませんが、練習も含め一人一人が一生懸命に取り組むこと、100人を超える友だちと一緒に一つ一つの作品（発表）を創る経験などを通して、この「うたごえ広場」は子どもたちの成長を促す大きな機会の一つと考えています。各学年とも、日々教室や音楽室、体育館で練習に励んでいます。11月6日（金）の本番では、きっと素敵な、そして子どもたちの成長が感じられる発表になることと思います。お忙しいこととは思いますが、子どもたちの発表をご覧になり、あたたかい拍手を送っていただくと喜びます。よろしくお願いします。

我々も学び続けます…

学校は、子どもたちはもちろんですが、我々教職員も日々成長し、レベルアップをしなくてはならないと思っています。我々が成長しレベルアップすることが、子どもたちのよりよい成長を促すことにつながっていると思っています。そのために、日頃から授業づくりのこと、学級づくりのこと、子どもたちへの指導や支援のことなど、学年部を中心に情報共有しながらよりよい方策を考えています。またその一方で、教職員研修の充実も図っています。

まずは9月3日（木）に鳴門教育大学教授の久我直人先生にお越しいただき、校内研修会を行いました。「子どもの幸せを生み出す信頼ベースの学級・学校づくりの理論と実践—自己信頼と心理的安全性を高める『勇気づけ教育』—」という演題で講義をしていただきました。講義の中で、まずは自分に対する信頼がすべてのベースになっていること、教員として「①教えること②考えさせること③価値づけること」を徹底することなど、多くの示唆をいただきました。久我先生には昨年度も来校いただいています。津田っ子は明るく素直で子どもらしさがあること、昨年度よりも学校全体に受容的な空気が流れていることなど学校全体のお話もしていただきました。津田っ子の様子を客観的に見ていただくとともに、教員として大切にすべきことなど多くのことを学びました。



また本校は今年度、算数の授業づくりについての研究に取り組んでいます。一人一授業ということで、全教員が算数の授業を公開し、その後授業についてふりかえる研究協議会を行っています。その中では、授業について子どもたちにとって効果的な指導や支援、手立てであったこととお互いに伝え合ったり、「もっと～すればよかった。」「～した方が〇〇さんにはわかりやすかったのでは。」というような改善点を指摘し合ったり、活発に話し合いをしています。時には、松江市教育委員会や松江教育事務所、島根県教育センターから講師をお招きし、授業づくりについての研修を深めています。



最後にもう一つ。教員同士の交流の時間を大切にしています。日頃はどうしても学年部で話をする機会が多いのですが、学年部の枠を外し、いろいろな学年部の教員であったり、経験の長短であったり、そういうことは関係なく教員同士の交流の場をもっています。今年度はこれまでに2回行いました。その場では、日頃学級づくりで大切にしていることや心がけていること、どうすればよいのかと悩んでいることなどお互いに出し合っています。その中でお互いに「なるほど。」と思ったり、「それをやってみよう。」と思うアイデアや考えを得たりする機会となっています。



このようなことを継続的に取り組む中で、我々教職員も学び続け、みんなで伸びていこうとしている津田小学校です。

お 願 い

ここからは保護者の皆様、地域の皆様、校庭や体育館を利用される皆様へのお願いです。昨年度もでしたが今年度も同様な様子です。

朝、昇降口前で児童を迎えるあいさつをしようと思うと行くと、校庭に多くのゴミが落ちています。菓子類の袋やペットボトル、空き缶などが主に落ちています。先日は体育館への渡り廊下のところにアルコール飲料の空き缶が落ちていました。ゴミが落ちているのは平日もですが、休日明けの日が特に多いように感じています。放課後や休日に校庭を利用されること、体育館でスポーツをされることはもちろん構いませんが、ゴミの始末については持ち帰っていただくなど、ご対応をお願いしたいと思っています。津田小学校の子どもたちへは各学級での指導を重ねていこうと思っています。学校は子どもたちが学ぶ場でもあります。子どもたちにとってきれいな環境でありたいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様、ご理解・ご協力をお願いします。